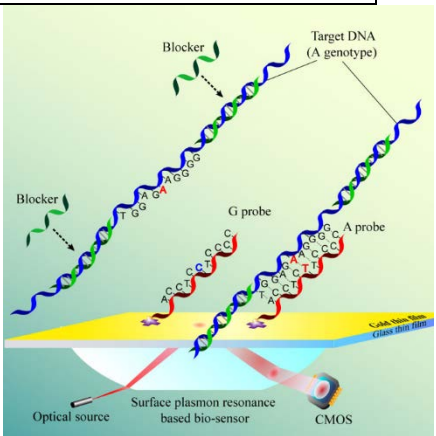
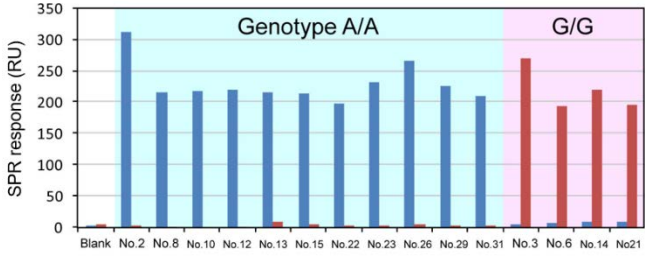


提供者名：福岡県		福岡県開放特許	2022-002
タイトル：ゲノム中の遺伝子変異（一塩基多型）の簡易で迅速な判定方法			
技術分野	利用分野・適用製品	情報メモ	
<input type="checkbox"/> 電機・電子 <input type="checkbox"/> 情報・通信 <input type="checkbox"/> 有機材料 <input type="checkbox"/> 金属材料 <input checked="" type="checkbox"/> 食品・バイオ <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input checked="" type="checkbox"/> 農林・畜水産 <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 機械・加工 <input type="checkbox"/> 化学・薬品 <input type="checkbox"/> 無機材料 <input type="checkbox"/> 輸送 <input type="checkbox"/> 生活・文化 <input type="checkbox"/> 繊維・紙 <input checked="" type="checkbox"/> 医療・介護	・遺伝子関連試薬 ・表面プラズモン共鳴測定装置 ・遺伝子変異判定装置 詳細資料： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 サンプル： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 見学： <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 その他：	
従来技術の課題・問題点			
<p>従来一塩基多型の判定は、RFLP（制限酵素断片長多型性）法、ダイレクトシーケンス法、TaqMan 法、次世代シーケンス法などで行われているが、適用範囲が限られる。また、多くのコストや時間がかかるなどのデメリットが存在する。</p>			
本発明の効果・特長			
<p>本発明は遺伝子変異当該部の PCR 産物を表面プラズモン共鳴測定装置に投入することで低コストで短時間に遺伝子変異の判定が可能であって、また、判定に際しては通常の機器操作経験があればよく、特段高い習熟性を要しない簡便な判定方法である。</p>			
技術概要（構造・動作等）			
<p>一塩基の違いを明確に判定するためになるべく短い増幅産物を用意し、ブロッカーと呼称する結合補助剤を添加し、表面プラズモン共鳴測定装置で変異遺伝子と正常遺伝子の相補鎖との結合量の差を見ることで、一塩基置換を確実に判定できる方法。</p>			
図・特記事項・その他			
			
<p>上図：一塩基置換が A のものと G のものが明確に識別できている。</p> <p>左図：表面プラズモン共鳴測定装置で変異遺伝子を判定する様子。</p>			
主たる提供特許		関連特許番号	
<p>登録番号／公開番号：特許第 5526337 号 出願日：平成 21 年 3 月 4 日（2009 年） 発明の名称：核酸のハイブリダイゼーション方法及び一塩基多型の判定方法 権利者／出願人：福岡県</p>		<p>特になし</p>	